

60系や80系：ちよつと古めのランドクルーザーをメインに扱い、首都圏や中京エリアで店舗を展開している「フレックスドリーム」。展示販売されるクルマはコンディションが極上なのはもちろん、今風なカスタマイズも施され、若いユーザーを中心に、その魅力が伝えてられている。

そんなフレックスドリームが今回、イチオシの車両を持ち込んでくれた。1台は200系。もちろん、現役のフラッグシップ・ランクルだが、フレックスドリームが手がけると、こんなスタイリッシュになる！ という、いお手本になっている。印象的なのは、まずそのボディカラー。マットなオレンジとブラックの2トーンで、SUVらしい躍動感がよく表現されている。またフロントグリルの一部や、フォグランプベゼル、サイドモールなどをブラッククロームに塗り分けるなど、こだわりの仕上がりだ。

そしてもう1台は、ロクマル。平成元年式のFJ62Gをナローボディ化、さらにローラーフ換装、丸目2灯化などを行なったうえで、ボディを2トーンに塗り分けている。バンパー、ヘッドライトベゼル、ドアミラー、ホイールなど、メッキアイテムの使い方も有効で、まるで26年前のクルマとは思えないほど、新鮮な存在感だ。

今回の200とロクマルは、フレックスドリームの豊富な在庫を誇るうちの2台。他にも、こんなふう仕上げたクルマも見つかるだろうし、リクエストでこんなクルマに、なんてことも可能。フレックスドリームの店頭やHPに、まずはアクセスしてみよう！

ビンテージから最新フラッグシップまで
フレックスドリームがランクルをスタイリッシュアレンジ!

flexdream

フレックスドリーム

<http://www.flexdream.jp>

ランクル調布店 ☎042-486-8887
ランクルさいたま北店 ☎048-970-6868
ランクル湘南厚木店 ☎046-258-6480
ランクル小牧店 ☎0568-76-0977
アップルさいたま岩槻店 ☎048-797-2700



LAND CRUISER 200



200用アフターのサスペンションは国内でもリリースされているのが数えるほどだが、今回の200にはUS製アイコンの3インチアップキットが装着されていた。フロントは車高調整式のタイプを使用する。



タイヤはFUELオフロードのマットグリッドパターン、33×12.5R20LTのリム径が大きい、しっかりサイドウォールも稼がれている。ホイールもFUEL、マットなブラックと切削ポリッシュのコントラストがオシャレ!

言うまでもなく、現行ランドクルーザーである200系。中古車市場では主役とは言い切れないが、こんな風にして乗れたら楽しい! ボディカラーは、オレンジの部分は塗装ではなくラッピングだ。つまり元の純正カラーに戻すこともできる。またベースはAXグレードだが、サイドモールやイルミネーション付きサイドステップなど、最上級グレードZXの装備を所要所に採り入れている。サスペンションはUSブランド「アイコン」の3インチアップキット。タイヤ&ホイールもUSブランド「FUELオフロード」でまとめている。



鮮やかなボディカラー、オレンジの部分はラッピングだ。フロントマスクは基本的にノーマルだが、グリルのクローム部分や、フォグランプベゼルの部分をブラッククロームにペイントしたことで、より精悍なイメージに仕上がった。リアセクションで印象的なのは、ガナドールの4本出しマフラー。ほどよく焼けたカラーで、スポーティなビジュアルを実現している。ブラックに塗り分けたサイドのオーバーフェンダーはJAOS製。出幅はわずかだが存在感は大だ。また、サイドのモールは最上級グレードであるZX専用で、それを流用して装着。これも本来はメッキ仕様なのだが、ブラッククロームに仕上げている。サイドステップもZXに標準装備されるもので、イルミネーションが付属している。

EXCITING
SUV
エキサイティングSUV

TEXT ● 高坂義信 PHOTO ● 相場恒弘

Latest Custom Style for LANDCRUISER 新旧ランクルカスタムスタイル最前線!

首都圏、そして中京エリアで、ランドクルーザー専門店を展開する、マニアにもおなじみのショップが「フレックスドリーム」。展示販売する車両は、ちょっと古めでも見事にレストア、しかもオリジナル・カスタムをプラス。個性たっぷりに乗れるのが魅力だ!



ランクルのプロが放つ 超オシャレな「今ドキ」カスタム!

LAND CRUISER 60

ここに登場した200と同様、USブランド“FUELオフロード”のタイヤ&ホイールを装着。タイヤはマッドグリップバ-M/T.33×12.50R20LT、ホイールは8本スポークのメッキ仕様だ。20インチを履けばロクマルも今っぽい!

フレックスドリームがとくに力を注いでいるのがランクル60系だ。もちろん、年式の進んだ車種だけに、店頭に並べるにあたってリペアは必須。またカスタマイズも施して提供することが多いという。今回のロクマルも、そんな中の1台。内外装は新車同様に美しく仕上げられ、さらに2トンのボディカラー、足まわり、タイヤ&ホイールのリフレッシュなど、ビギナーからベテランまで、納車したその日から走りを楽しめる内容となっている。今回のベースのFJ62Gはワイドフェンダー、ハイルーフ、角目4灯だが、それらをごとくカスタムしていることにも注目。



ベースのFJ62Gは、60系初のワゴン(3ナンバー)登録車で、シリーズ最終モデル。ノーマルでは角目4灯のマスクだったが、初期モデルの丸目2灯に変更されている。ライトベゼルは純正だがメッキ仕上げ。ヘッドランプはIPFのスリーポイントタイプだ。

サスペンションは4×4エンジンリアリングサスペンションの、カントリーサスペンションキットに変更。約3インチのリフトアップを実現しながら、しなやかな乗り心地と、長いホイールストローク量を手に入れた、今ドキのクルマとしても満足できる乗り味。



FJ62Gはまた、ハイルーフ仕様+オーバーフェンダー付きだが、このクルマはローレル換装、またオーバーフェンダーも取ってナローボディ化。すっきりスタイリッシュに变身した。